

かながわ NPO 伴走応援 プログラム

2025報告書

神奈川県「令和7年度NPOの組織基盤強化のための伴走支援事業」実施報告書



目次

かながわNPO伴走応援プログラム2025 報告書

 プログラム概要……………	2
 実施スケジュール……………	4
 取組報告……………	5
 プログラムの成果……………	16
 キックオフ・報告会……………	20
 伴走サポーター会議……………	21
 組織診断の活用……………	22
 参加支援組織……………	24

かながわNPO伴走応援プログラムは、組織の継続・基盤強化に取り組む意欲のある神奈川県内のNPO法人を対象にした伴走応援プログラムです。

神奈川県「令和7年度NPOのための組織基盤強化のための伴走支援事業」を受託した一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわが、県内の中間支援組織15団体と連携して、プログラムを実施しました。

本プログラムに参加したNPO法人20団体は、自己診断ツール『組織を支える17の視点』を活用して団体の組織課題を探り、多様な経験や専門性を持つ「応援チーム」（中間支援組織、NPO運営の実践者、専門家等）と一緒に、より良い組織づくりをめざしました。

プログラムの目的

本プログラムに参加する県内NPO法人(以下、参加団体)は、自組織の現状把握・課題の可視化を行い、自ら課題解決や組織改善に取り組むとともに、課題に応じた多様な経験・専門性を持つチームによる伴走支援を通じて、組織力の向上、資金調達の強化、事業の拡大等を図る。

県内の中間支援組織は、サポーター(以下、伴走サポーター)として参加団体の伴走支援を行うことで、中間支援組織としての相談対応力等の向上を図る。また、本プログラムを通して、県内中間支援組織のネットワークの強化を図る。

プログラム参加団体の要件

- 県内に主たる事務所を置くNPO法人であること
- NPO法人設立前に任意団体であった時期も含め、3年以上活動していること
- 事業報告書等を提出期限内に所轄庁へ提出していること
- 法人の組織基盤強化や組織改善に意欲があること
- 伴走支援を受けることに関して組織内で一定の合意ができていること
- 本事業の窓口となる担当者を定め、今回の伴走支援に対し、法人として責任をもって対応することができること

プログラムの
全体像

参加団体(NPO法人)

県内20団体へ個別に伴走

応援チーム

伴走サポーター
支援センター・中間支援組織

連携・協力

NPO運営の実践者
士業等の専門家など

協力依頼・助言

情報共有・報告

ニーズに応じて協力依頼

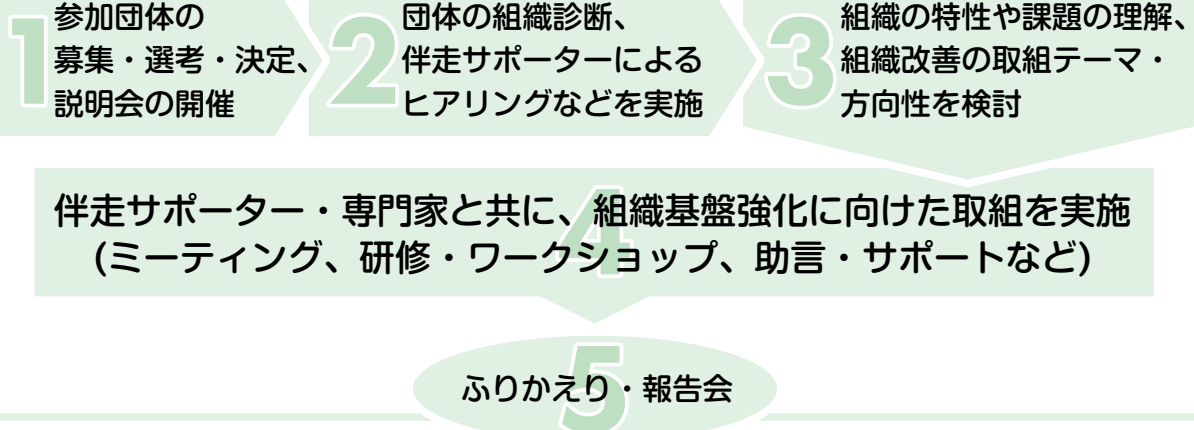
かながわNPO伴走応援プログラム事務局
(ソーシャルコーディネートかながわ・藤沢市民活動推進機構)

委託・
広報
協力

神奈川県

報告

伴走応援プログラムの流れ





6 ページ	1	特定非営利活動法人 cotori	子どもの居場所事業の展開に向けた基盤をつくる
	2	特定非営利活動法人 NPO日本救難バイク協会	ワークシートを活用して団体の将来像を整理する
7 ページ	3	特定非営利活動法人 地域で子どもを育む会	企業支援や協働につながる団体紹介チラシをつくる
	4	特定非営利活動法人 かわさき市民アカデミー	講座の魅力を伝える広報を強化する
8 ページ	5	NPO法人 霧が丘ぷらっとほーむ	5年後を描き、カフェの持続運営を考える
	6	特定非営利活動法人 神奈川県転倒予防医学研究会	持続する運営に向け対話の場を広げる
9 ページ	7	特定非営利活動法人 横浜移動サービス協議会	ビジョン・ミッションと事業を結び直す
	8	特定非営利活動法人 ウクライナ横浜基金	先輩NPOから広報と組織体制づくりを学ぶ
10 ページ	9	特定非営利活動法人 ピュアスマイルスタジオ	学生参画を支える仕組みをつくる
	10	特定非営利活動法人 フードバンク浜っ子南	広報強化で組織の一体感を育む
11 ページ	11	NPO法人 icoccaひのみなみ	寄付を力に地域に根付くカフェへ
	12	特定非営利活動法人 木々の会	30周年を機に組織のあり方を振り返る
12 ページ	13	NPO法人 フードコミュニティ	業務の見える化で組織運営を見直す
	14	NPO法人 ロングタイムレコーダーズ	他組織との連携で団体の認知度を高める
13 ページ	15	特定非営利活動法人 イランの障害者を支援するミントの会	仲間づくりと5か年計画の振り返り
	16	特定非営利活動法人 湘南多文化ガーデン	想いを言葉にし、支援の土台を整える
14 ページ	17	NPO法人 へき地保健師協会	事務作業の棚卸しから運営を見直す
	18	NPO法人 アルペなんみんセンター	認定NPO法人化に向けた基盤整備を進める
15 ページ	19	特定非営利活動法人 アートとつながる鎌倉	活動の理解を広げる体験会を開催する
	20	特定非営利活動法人 葉山フレンドシップ	誰もが来やすい拠点をめざしたカフェ運営を考える

特定非営利活動法人 cotori

子どもの居場所事業の展開に向けた基盤をつくる

所在地	川崎市麻生区
活動開始	2021年12月
法人認証	2023年12月
活動内容	虐待未然防止の為に子育て支援（おやこ広場、こども食堂等）
直近の収入額	289万円(2024年度)

団体の現状と課題

活動4年目を迎えて、おやこ広場や子ども食堂の利用者が増え、活動を継続・発展させるために、人材や資金の確保、会計・労務など、活動を支える体制づくりが課題でした。また、就学年齢の子どもの居場所づくりへの助言も希望していました。

支援の方針・取組内容

子どもの居場所づくりにあたり、地域とのつながりを広げる一助として、川崎市「地域の寺子屋事業」への参画を提案し、先行する活動の現場を

見学しました。また、法人として一貫したボランティア受入体制を整えられるよう、ボランティア謝金規程のモデルを提示しました。



伴走サポーター

特定非営利活動法人 ぐらすかわさき

団体からのコメント（頂いたコメントより一部抜粋）

2026年度に寺子屋を立ち上げる予定。相談員がいる寺子屋として、学校だけでも塾だけでもできない形をやってみたい。この度の伴走支援で得た知識で、定めた取組や事業を推進するとともに、持続可能な取組にすべく、団体内の結束はもとより、近隣の学校や自治体、行政との連携を強固にし、地域に根付く活動としていきたい。

特定非営利活動法人 NPO日本救難バイク協会

ワークシートを活用して団体の将来像を整理する

所在地	川崎市多摩区
活動開始	1996年4月
法人認証	2006年6月
活動内容	災害復興支援、被災者対応、現地情報収集、訓練など
直近の収入額	5万円(2024年度)

団体の現状と課題

バイクを活用した災害時の支援活動を実施していくにあたり、会員の減少により平時のイベント企画が難しく、それがさらなる会員減少を招く負のスパイラルの状態にありました。また、情報発信力の強化も課題でした。

支援の方針・取組内容

団体の将来像と大切にしたい価値を整理し、誰にどのような情報を届けるかを考えるため、伴走サポーターが提案したワークシートをもとに、話し合いながら中期計画づくりを進めました。団体

の現在地や今後のあり方を言語化したことで、今後、学生との協働も視野に、広報ツール作成に向けた方針を固めることに貢献しました。



伴走サポーター

公益財団法人 かわさき市民活動センター

団体からのコメント（頂いたコメントより一部抜粋）

「中期計画」を考えるワークシートの活用で今後の考え方の整理ができた。基盤強化に継続して取り組みたい。大学連携事業の利用が楽しみ。平時での走行訓練は現状では実現が難しいが、「走る支援、つながる命」をスローガンに、社会貢献できるための準備をしたい。

特定非営利活動法人 地域で子どもを育む会

企業支援や協働につながる団体紹介チラシをつくる

所在地	大和市（活動場所：川崎市内）
活動開始	2021年12月
法人認証	2022年4月
活動内容	小中学生の居場所、学習支援、子ども食堂
直近の収入額	329万円(2024年度)

団体の現状と課題

資金調達のため、企業寄付やサポーター200名の獲得を目標に効果的な方法を模索していました。活動開始から3年が経ち、ボランティアスタッフが増えるに伴い、団体内のコミュニケーションを効率的に行う方法などに課題を感じていました。

支援の方針・取組内容

地域の企業への働きかけを進めるツールとして、団体の求めに応じ、企業向け団体紹介チラシの作成を支援しました。何度もやり取りを重ねな

がら、客観的な立場で具体的な助言を行ったことで、代表が大切にしている想い、団体が提供する活動、受益者の声が整理され、企業の支援や協働につながるストーリーとしてまとめられました。



伴走サポーター

公益財団法人 かわさき市民活動センター

団体からのコメント（頂いたコメントより一部抜粋）

何度か、理事だけやボランティア全体で伴走支援者の方々とミーティングする機会があり、第3者からの問いかけに対し、会の運営について全体で考え、進めていくという意識が芽生えました。引き続き、企業支援者を募る活動を行い、目標額に到達できるよう進んでまいります。

特定非営利活動法人 かわさき市民アカデミー

講座の魅力を伝える広報を強化する

所在地	川崎市中原区
活動開始	2007年4月
法人認証	2007年3月
活動内容	市民大学「かわさき市民アカデミー」運営
直近の収入額	9,412万円(2024年度)

団体の現状と課題

受講生はシニア世代が中心で、社会環境の変化もあり、受講生数は減少傾向にありました。運営を支える受講料収入の維持や、講座を支える世話人(ボランティア)の確保について、より安心できる未来を描きたい状況でした。

支援の方針・取組内容

団体の現状や課題についてヒアリングや意見交換を行い、「新規受講生の緩やかな減少」という課題に対し、SNS活用をテーマに専門家を交えた広報戦略会議や動画作成など、広報面からの取組

を進めました。また、受講生ターゲットの拡大や講座内容の多様化、オンライン活用なども提案しましたが、期間内での取組は難しく、今後の検討課題として整理しました。



伴走サポーター

NPO法人 まちラボ

団体からのコメント（頂いたコメントより一部抜粋）

「素晴らしい講座を多数実施しているがその素晴らしさがなかなか伝わらない」とのご指摘を受け、日常の活動の中での改善を加速していく。受講生の新規獲得につなげる広報活動の中で、SNS、動画の活用について助言と支援を受けたことは、今後の活動の充実につながることを期待できる。

NPO法人 霧が丘ぷらっとほーむ 5年後を描き、カフェの持続運営を考える

所在地	横浜市緑区
活動開始	2021年6月
法人認証	2022年3月
活動内容	コミュニティカフェ運営、多世代・多文化交流イベント等
直近の収入額	885万円(2024年度)

団体の現状と課題

カフェ開設3年を迎え、補助金に頼りすぎない自律的な運営の道筋を作りたいと考えていました。また、特定のメンバーに業務が集中していたため、主体的に動ける人材の育成や確保が課題でした。

支援の方針・取組内容

多世代のメンバーが集まりワークショップを行い、5年後の団体のありたい姿を皆で考えました。さらに、「自主財源づくり」「事務局機能を含めたコアチームづくり」を検討テーマに掲げ、カフェ



設立3周年に向けた寄付集めの具体的な方法について、皆でアイディアや意見を出し合いました。また、事務局業務の見える化と役割分担の整理にも取り組みました。

伴走サポーター

参画はぐくみ工房

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

コアメンバーの増員によりキッチンと事務チームを強化し、業務の偏りのバランスを整えたい。クラウドファンディングはネクストゴールを達成。賛助会員には御礼のコーヒーチケットに加え賛助会証を発行し、想いの共有と来年度への継続を工夫した。会議で出た皆のアイディアが形になってきて嬉しいです。

特定非営利活動法人 神奈川県転倒予防医学研究会 持続する運営に向け対話の場を広げる

所在地	横浜市青葉区
活動開始	2013年4月
法人認証	2013年5月
活動内容	転倒予防教室の開催等
直近の収入額	379万円(2024年度)

団体の現状と課題

活動をさらに広げていきたい思いがある一方で、専門的な運動指導員や活動に主体的に関わるメンバーが不足していました。また、代表者の思いや団体の方向性を共有する機会が少なく、17の視点の結果からも、「将来イメージの理解」や「これからを話し合う機会」の必要性が課題として整理されました。

支援の方針・取組内容

代表との複数回の面談を通して課題や思いを整理し、代表の構想を「人材育成プロジェクト」として資



料化し、団体内で共有できる形に整えました。また、団体内のコミュニケーションを促すため、交流会や意見交換会を開催しました。意見交換会では、サポーターが案内や会場、オンライン環境の準備を担い、代表の考えをメンバーに伝える機会となりました。

料化し、団体内で共有できる形に整えました。また、団体内のコミュニケーションを促すため、交流会や意見交換会を開催しました。意見交換会では、サポーターが案内や会場、オンライン環境の準備を担い、代表の考えをメンバーに伝える機会となりました。

伴走サポーター

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

短い期間でしたが大変勉強になりました。組織は、第三者の意見で目覚め活力を得て、新たな夢と希望が生まれます。この制度を活かして多くのNPO組織に影響を与え続けて頂きたいと望みます。

特定非営利活動法人 横浜移動サービス協議会

ビジョン・ミッションと事業を結び直す

所在地	横浜市中区
活動開始	2000年9月
法人認証	2004月11日
活動内容	移動に関する情報提供・相談、移動支援、人材育成等
直近の収入額	4,169万円(2023年度)

団体の現状と課題

発足から25年、社会の変化に応じて事業の幅を広げ、活動を続けてきました。一方で、社会環境や福祉制度・サービスの変化を受け、多岐にわたる事業をどのように整理し、活動拠点の維持や職員の雇用、活動経費の確保など、持続性を高めていくかが課題となっていました。

支援の方針・取組内容

団体はプログラム参加前から、これらの課題解決に向けた協議を進めていました。サポーターは団体メンバーの話し合いに陪席し、議論の経過

を見守りました。また、ビジョン・ミッションと各事業の関係を整理し、組織全体の事業の位置づけを可視化しました。



伴走サポーター

一般社団法人 ソーシャルコーディネートかながわ

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

プログラムに参加したことで、事務局が主体的に課題整理でき、事業への意識が高まっています。客観的かつ俯瞰で伴走いただいたおかげで、当会のビジョンとミッションを果たすために各事業が不可欠であり、その課題解決に向けて継続すべきだとの判断につながりました。今後も「生き残り大作戦」を合言葉に継続協議をしながら、当会の果たすべき役割を担っていきたいと考えています。

特定非営利活動法人 ウクライナ横浜基金

先輩NPOから広報と組織体制づくりを学ぶ

所在地	横浜市中区
活動開始	2022年2月
法人認証	2025年3月
活動内容	チャリティーコンサート、ウクライナの戦争負傷者への資金支援等
直近の予算額	66万円(2025年度)

団体の現状と課題

設立間もないNPO法人で、実務が特定のメンバーに集中している状況でした。手伝ってくれる仲間との役割分担を円滑に進め、会計や広報などの運営基盤を整えたいと考えていました。

支援の方針・取組内容

活動に必要なタスクを細分化し、他のメンバーが分担できる業務がないか検討しました。12月のチャリティーコンサートでは、配布するプログラムを活用してボランティア募集を試みました。さらに団体の信頼感を高めるため、団体概要や

活動の意義を伝えるパンフレットづくりを提案し、作成しました。また、認定NPO法人を目指すうえで必要な事務や会計のポイントの説明も行いました。



伴走サポーター

特定非営利活動法人 森ノオト

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

NPOを設立したばかりだった為、組織体制作りが、活動の基盤になると改めて感じた。事務作業や大変だと思ってやっていることも特別なことではなく、先輩NPOが同じように進まれてきた道のりがあったことを実感できた。特に認定NPO実現の苦勞を聞けて大変勉強になった。

特定非営利活動法人 ピュアスマイルスタジオ

学生参画を支える仕組みをつくる

所在地	横浜市南区
活動開始	2021年11月
法人認証	2021年11月
活動内容	がん患者・経験者の人権擁護、社会貢献の場の提供等
直近の収入額	72万円(2024年度)

団体の現状と課題

団体は理念や活動への共感を集める力があり、多くの学生会員が集まる一方で、主体的に運営を担う人材が少ない状況でした。ヒアリングや組織の自己点検の結果、組織運営における仕組みや役割分担が十分に設計されていないことが見えてきました。

支援の方針・取組内容

学生受入に関して、フロー図の作成、月1回の説明会導入、オリエンテーション内容の整理、連絡手段の一本化、企画フォーマット整備などを行

い、個別対応から仕組みによる運営に移行するための設計支援を行いました。

また、理事間での認識共有も進め、組織基盤の整理を図りました



伴走サポーター

特定非営利活動法人 アクションポート横浜

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

伴走を通じて、団体内の対話量が明らかに増えたと感じている。これまで曖昧だった役割や期待値が言語化され、「なぜ仕組みが必要か」という共通理解が生まれつつある。特に学生対応については、個別の熱意に委ねるのではなく、団体としてどう関わってほしいのかを説明できる準備が整い始めたことが大きな変化である。

特定非営利活動法人 フードバンク浜っ子南

広報強化で組織の一体感を育む

所在地	横浜市戸塚区
活動開始	2020年6月
法人認証	2021年4月
活動内容	ひとり親支援フードパントリー、親子イベントの実施等
直近の収入額	540万円(2024年度)

団体の現状と課題

創立5周年を迎え、ビジョンやミッション、活動で大切にしている価値観をメンバー間で共有する必要を感じていましたが、日々の活動に追われ十分に進められていませんでした。また、資金基盤の強化や情報発信も課題としていました。

支援の方針・取組内容

広報の強化を通して、団体の動きや課題感、ビジョン・ミッションをボランティアメンバーと共有することにしました。Instagramによる発信を充実させ、寄付者や企業にもアピールできるよう、



広報紙をリニューアルしました。打合せには毎回多くのメンバーが参加し、団体内のコミュニケーションの場となりました。

伴走サポーター

特定非営利活動法人 YMCAコミュニティサポート

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

サポーターの方が同じ目線で寄り添っていただいたので全体の理解が深まりこれからすべきことがわかった。外からの目でアドバイスがありがたかった。組織の一体感醸成の端緒となり、活動の充実につながることを期待したい。

NPO法人 icoccaひのみなみ

寄付を力に地域に根付くカフェへ

所在地	横浜市港南区
活動開始	2020年6月
法人認証	2020年5月
活動内容	コミュニティカフェ運営、子育て支援、高齢者支援など
直近の収入額	756万円(2024年度)

団体の現状と課題

カフェ開設から5年経ち、一軒家取得や認定取得に挑戦していました。新たな収入源を模索し、ボランティア中心の体制から、担い手が無理なく継続できる形へ移行したいと考えていました。

支援の方針・取組内容

地域から必要とされる団体として、寄付集めの仕組みづくりを進めました。「認定NPO法人こまちぷらす」から、寄付戦略や寄付募集チラシの助言を受けました。また、他団体のコミュニティカフェを視察し、新しい拠点運営のヒントを得ました。



伴走サポーター

特定非営利活動法人 くみんネットワークとつか

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

寄付の依頼をすることに不安があったのですが、金銭的支援が「私も一緒にやっている!」「応援しているよ」の気持ちの表れでもあったと知り、大きく気持ちを切り替えることができました。学んだことを念頭に、これからもしっかりと地域に根付いた活動をしていきたいと思っています。

特定非営利活動法人 木々の会

30周年を機に組織のあり方を振り返る

所在地	横浜市旭区
活動開始	1994年10月
法人認証	2007年2月
活動内容	精神障がいを持つ人たちの日中活動の場やグループホームの運営、地域交流活動
直近の収入額	13,748万円(2024年度)

団体の現状と課題

設立30周年で改めてミッションとビジョンを明確にし、中長期のプランを作りたいと考えていました。活動・運営に関わるマンパワーの開拓、組織内コミュニケーションと意思決定の仕組み、発信力などの課題を認識していました。

支援の方針・取組内容

組織の自己点検によって、役員と職員の間組織に対する意識や捉え方に差があることが見えてきました。そこで、職員ワークショップで日頃感

じていることなどを話してもらい、意見を整理したうえで、理事と共有しました。また、中小企業診断士から経営の考え方や視点について助言を受けました。



伴走サポーター

特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

「何のために仕事をしているのか」という気づきや、「自分にできる何か」を利用者(メンバー)が考えるきっかけが大事という意見があり、改めて「原点」を振り返る大切を感じた。今後につなげていきたい。

NPO法人 フードコミュニティ
業務の見える化で組織運営を見直す

所在地	相模原市南区
活動開始	2016年10月
法人認証	2023年12月
活動内容	食品ロスの削減、生活困窮者や子育て家庭への食材支援
直近の収入額	25万円(2023年度)

団体の現状と課題

代表に業務が集中しており、業務分担の明確化や事業の見直しが必要でした。また、NPO法人化や行政・企業との協働に関し、メンバー間の認識に温度差があり、団体内のコミュニケーションに課題が見られました。

支援の方針・取組内容

業務の可視化を図るため、業務の棚卸表を作成し、メンバーと意見交換して業務内容や役割を共有しました。また、法人化に対する温度差や法人事務に関する認識不足を解消するため、NPO法



人のメリット・デメリットや協働の効果についてミニセミナーを開催しました。

伴走サポーター

特定非営利活動法人 さがみはら市民会議

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

運営の進め方や組織としての在り方を見直す良い機会をいただいたと感じています。今後は、運営委員を中心に、組織としての考え方や行動の仕方を一つひとつ確認しながら、着実に前進していきたいと考えています。

NPO法人 ロングタイムレコーダーズ
他組織との連携で団体の認知度を高める

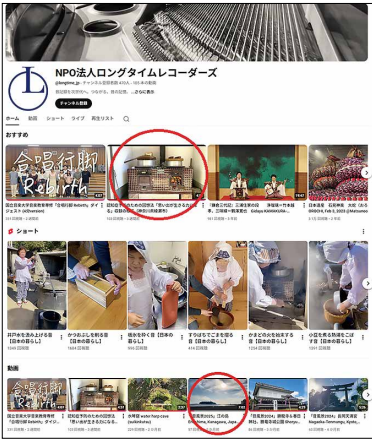
所在地	座間市
活動開始	2022年1月
法人認証	2022年1月
活動内容	地域の音風景や演奏記録の収集・編集・公開、音の歴史的遺産継承など
直近の収入額	96万円(2024年度)

団体の現状と課題

活動を継続・発展させるために、組織運営や事業計画の見直しを進めたいと考えていました。特に広報力の強化、役割分担の明確化、持続的な収益モデルの構築を課題と捉えていました。

支援の方針・取組内容

活動の価値を伝えるため、団体の認知度を高め、他組織とつながるきっかけづくりとして、録音技術などの専門スキルを活かした他団体との連携(懐かしい暮らしの音の収録)を実現しました。また、団体が提供できる講師派遣などのメニュー



を紹介するパンフレットの内容を検討しました。

伴走サポーター

ざま市民活動応援広場

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

音や音楽を通じた支援は「かたちが見えにくい」ということにあらためて気づきました。真剣に話を聴いて頂く過程で「何を伝え、誰とつながり、どう届けるか」を問い直す機会を得たことに価値がありました。他団体との連携や、座間市内コミュニティ施設での展開など、実践へと動き出しています。

特定非営利活動法人 イランの障害者を支援するミントの会

仲間づくりと5か年計画の振り返り

所在地	秦野市
活動開始	2006年4月
法人認証	2010年1月
活動内容	イランの障害者の自立支援、交流活動など
直近の収入額	496万円(2024年度)

団体の現状と課題

以前受けた研修で、ビジョンや中長期計画を見直しましたが、近年はメンバーの多忙により話し合いの機会が減っていました。活動を継続するため、新たな仲間づくりや資金調達の方法を検討したいと考えていました。

支援の方針・取組内容

仲間(デュスターネ ナノ)づくりをテーマに、会員・サポーター募集に向けたチラシの作成・配布や、情報発信の強化としてInstagramの活用に取り組みました。これまでの5か年計画を振り返

り、できたこと・できなかったことを可視化し、今後の中期計画に向けた意見交換を団体内で行いました。



伴走サポーター

特定非営利活動法人 湘南NPOサポートセンター

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

組織の自己点検の結果を会員と共有し、何が課題かを共有できた。会員に伝えていなかったことをもっと共有すべきと気づき、ミーティングで話をする機会を持とうと感じた。組織の状況(財務や広報など)を見える化することが少しずつできた。

特定非営利活動法人 湘南多文化ガーデン

想いを言葉にし、支援の土台を整える

所在地	藤沢市
活動開始	2022年5月
法人認証	2024年10月
活動内容	多文化の子どもと保護者の学校生活に関わるサポート、多文化理解促進
直近の収入額	68万円(2024年度)

団体の現状と課題

団体のビジョン・ミッションを最近入会した会員との間で十分に共有できていないことを課題と感じていました。また、宿題サポートなどに参加する子どもについて情報共有の仕組みがなく、継続した支援につながりにくい状況でした。

支援の方針・取組内容

団体の理念や活動を分かりやすく伝えるため、キャッチフレーズ作成のワークショップを開催し、会員が意見を出し合いながら言葉を整理しました。また、専門家の助言を受けながら参加者デー



タベースの構築を進めました。

伴走サポーター

特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

ワークショップを通して、会員それぞれがどのような想いを持っているか共有ができた。ウェブサイトやパンフレット作りにも弾みがついた。データベース構築の話し合いを通して、サポートに必要な情報の取捨選択ができた。データベースを活かし、より効果的なサポートにつなげたい。

NPO法人 へき地保健師協会

事務作業の棚卸しから運営を見直す

所在地	鎌倉市
活動開始	2018年9月
法人認証	2018年9月
活動内容	へき地保健師の交流、情報配信、へき地自治体の保健師確保の相談など
直近の収入額	12万円(2024年度)

団体の現状と課題

全国に居住する理事メンバーが本業と並行して運営に関わっており、事業の進捗や運営状況の共有にばらつきがありました。依頼対応なども増えるなか、効率的で安定した運営体制づくりに向けた優先課題の整理が必要でした。

支援の方針・取組内容

法人の事務作業量や負担感を可視化するため、必要な作業を洗い出した一覧表を作成しました。ヒアリングや事務フローの整理を通じて課題を把握・整理し、フィードバックレポートとして対応



の方向性を提示しました。また、フォームを活用した業務管理の仕組みも提案しました。

伴走サポーター

特定非営利活動法人 くみんネットワークとつか

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

丁寧な課題のヒアリングを伴走支援団体から受けることによって、自組織の課題の優先順位が見え、解決に向けた提案をいただけたことが良かったです。また、組織の自己点検アンケートによって、会員の法人運営についての意見を聞くことができ貴重な機会となりました。

NPO法人 アルペなんみんセンター

認定NPO法人化に向けた基盤整備を進める

所在地	鎌倉市
活動開始	2020年4月
法人認証	2020年1月
活動内容	難民への定住支援(緊急シェルター、交流機会の提供)等
直近の収入額	5,156万円(2024年度)

団体の現状と課題

設立5周年を迎え、初期的な基盤強化はできつつありました。長期的な基盤強化のため、具体的なアドバイス等のサポートを受けながら、情報発信力、資金調達力を強化したいと考えていました。

支援の方針・取組内容

認定NPO法人の申請を進めていたため、実態調査に向けて必要となる書類やデータの確認を行いました。また、寄付金領収書の発行スキームについて検討しました。あわせて、諸規程の整備の一環として、専門家の助言を得ながら就業規則の



策定に取り組みました。

伴走サポーター

特定非営利活動法人 鎌倉市市民活動センター運営会議

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

諸課題を洗い出す機会になった。諸課題の解決に向けて、職員間の討議の機会が増えた。業務システムの効率化の必要性を職員間で共有できた。今後、認定NPOとして広く社会に難民問題を伝える。就業規則整備に伴い、職員の待遇改善をはかる。活動強化のために、業務のDX化をすすめる。

特定非営利活動法人 アートとつながる鎌倉

活動の理解を広げる体験会を開催する

所在地	鎌倉市
活動開始	2008年7月
法人認証	2020年2月
活動内容	アートを通じた教育啓発、ワークショップ等
直近の収入額	30万円(2023年度)

団体の現状と課題

鎌倉市内の施設等と連携して活動してきましたが、学校や他地域の文化施設との連携など、活動の広がりを模索していました。活動の意義を理解してもらい、活動場所を広げる難しさを感じ、課題解決のための知見や人脈を求めています。

支援の方針・取組内容

組織の将来イメージの共有と、団体情報の発信を狙いとして、仕掛けり中であつた団体紹介パンフレットを仕上げました。また、NPOセンター鎌倉と協働で、対話型美術鑑賞とアートカード



ゲームの体験会を開催し、参加者に団体活動の理解をすすめ、人材獲得のきっかけを作りました。

伴走サポーター

特定非営利活動法人 鎌倉市市民活動センター運営会議

団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

自分たちでも薄々気づいていた問題点を指摘され、改善に向けて重い腰を上げる良いきっかけとなりました。多くのNPO団体の素晴らしい活動を知り、今後もこれらの団体の方々との横のつながりを持ち、協働やお手伝いをしたり、お願いしたりする関係が築けたらと感じました。

特定非営利活動法人 葉山フレンドシップ

誰もが来やすい拠点をめざしたカフェ運営を考える

所在地	葉山町
活動開始	2016年11月
法人認証	2019年11月
活動内容	食と体の改善と居場所づくり(昼食・甘味提供、サロン、弁当配達見守り)
直近の収入額	1,287万円(2024年度)

団体の現状と課題

事業開始から9年が経ち、スタッフの高齢化や調理業務が特定のメンバーに集中しており、業務負担の見直しが必要でした。また、地域の居場所として認知を高め、子育て世代の利用促進に向けた情報発信も課題と考えていました。

支援の方針・取組内容

コミュニティカフェ「心花」が今後も地域の居場所として継続できるよう、スペース貸しの可能性など運営のあり方を検討しました。また、他地域で、多世代が集うコミュニティカフェを運営す



る団体を訪問し、居場所づくりの工夫や課題について意見交換しました。

伴走サポーター

特定非営利活動法人 YMCAコミュニティサポート

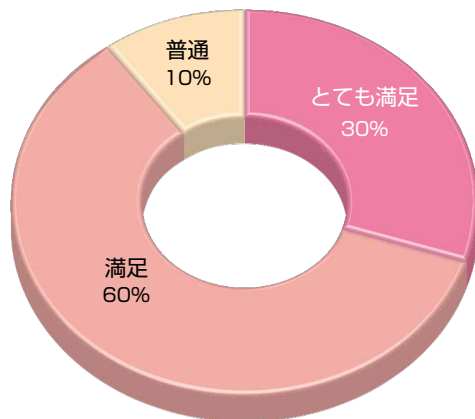
団体からのコメント(頂いたコメントより一部抜粋)

収支等、団体基盤を客観的な視点で見直すことで、理事の間で共通の認識、想いの共有ができたのではないかと思います。また、宮の前テラスへの見学を通じて、広報のヒント、団体運営のヒントがありました。今後の葉山フレンドシップの活動につなげていきます。

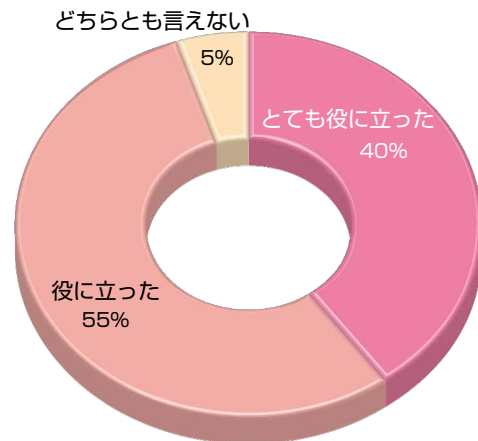
参加団体 アンケート結果

(回答数20団体)

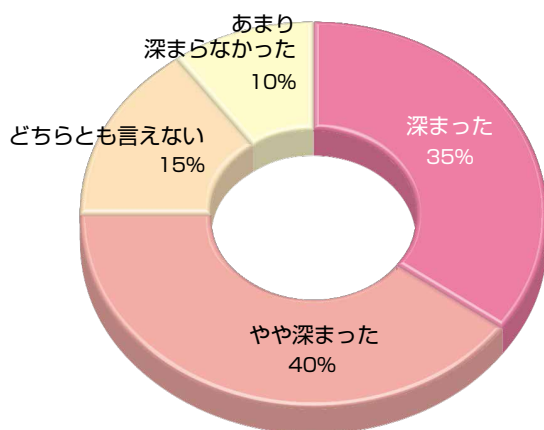
① 本プログラムにどのくらい満足しましたか



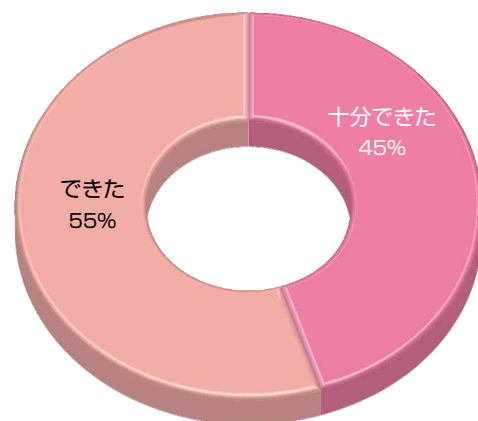
② 本プログラムは貴団体の組織基盤強化に役立ちましたか



③ 組織の自己点検(17の視点)に回答したことで、貴団体の組織課題への理解が深まりましたか



④ 団体を担当した伴走サポーターと情報共有や意見交換が十分できましたか

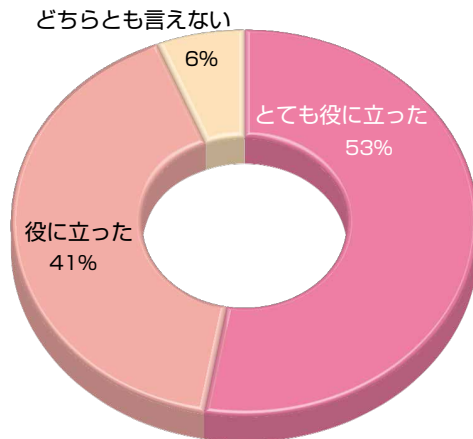


アンケート結果 自由記述回答より

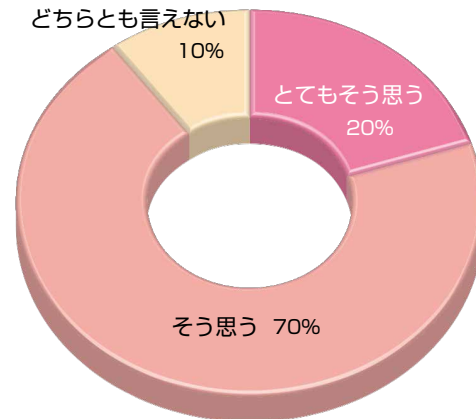
本プログラムは貴団体の組織基盤強化に役立ちましたか

- ・ 広報の新しい取組ができ、サポーターを増やせた。
- ・ 運営上の知らなかったことや、基盤を盤石にするための今後の団体の方向性、新たな取組等について色々ご相談できた。
- ・ 団体の活動や課題を外部の方からの視点で整理する貴重な機会を得ることができた。地域団体との連携や公共施設での展開など、次の具体的な方向性も見えた。
- ・ 持続可能な運営のため、寄付を積極的に集めていく新たな一歩を踏み出せた。
- ・ 組織の自己点検に回答してくれた方が多く、たくさんの方に支えられていることを実感できた。
- ・ 具体的な成果物を得ることができた。

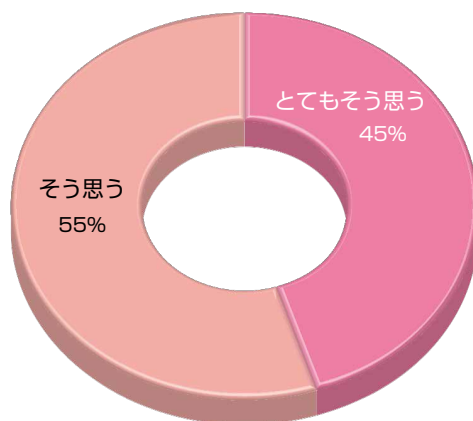
⑤ 専門家の助言や支援は組織基盤強化に役立ちましたか



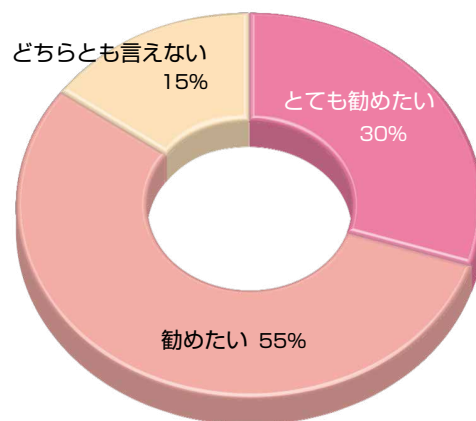
⑥ 本プログラムに参加したことで、団体のなかに変化が生じたと感じますか



⑦ 今回の伴走支援の取組は、貴団体の成長や新たな展開につながると感じますか



⑧ 本プログラムへの参加を他のNPOにも勧めたいと思いますか



本プログラムについて、ご意見・ご感想など

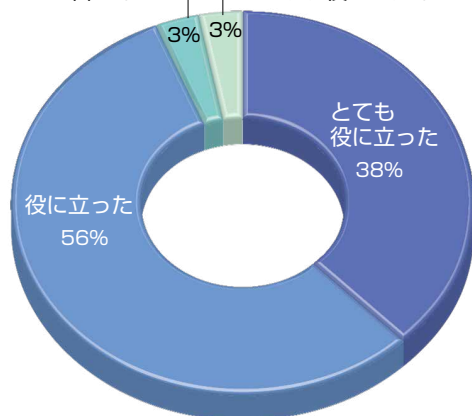
- ・ 目標設定までの時間が中々決まらずでしたが、そのおかげで、メンバーの意識も当事者寄りになった。
- ・ 当法人は、広く注目を集める直接的な支援のような活動ではないかもしれませんが、音や記憶、文化を記録・継承することには確かな意義があると信じており、社会の一部として静かに貢献したいという想いで取り組んでいる。そうした少し抽象的とも言える話を、真剣に受け止め、丁寧に耳を傾けていただいた皆様に深く感謝している。
- ・ プログラムに参加させていただき、「なんと不安定な足元(基盤)で立っていたことか」と気づいた。法人が節目を迎えるこのタイミングで皆様にご支援をいただけたこと、他団体と交流し学んだことは今後の活動の糧になる。
- ・ 今回つながりができたことで、今後も地域のサポーターとして頼りにしていきたいと思っている。今回プログラムに参加することを迷いましたが、思い切って参加し、得られるものがたくさんあった。

伴走サポーター アンケート結果

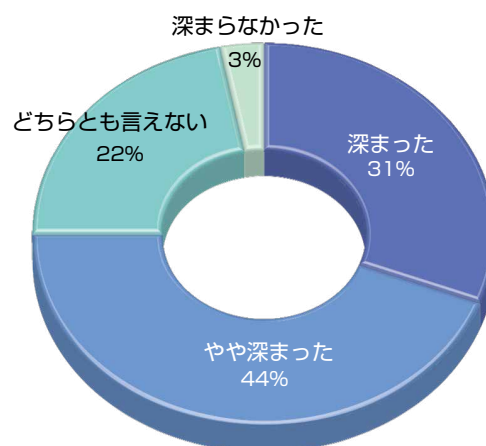
(回答者数32名)

- ① 本プログラムは、あなたの相談支援力の向上に役立ちましたか

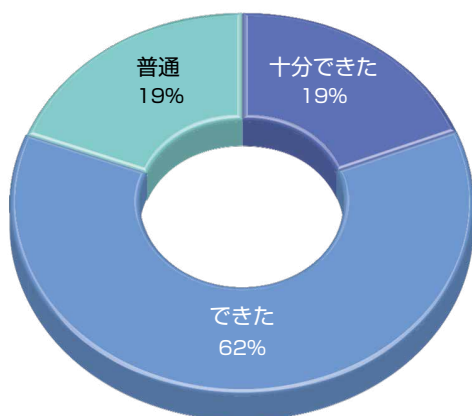
どちらとも言えない あまり役に立たなかった



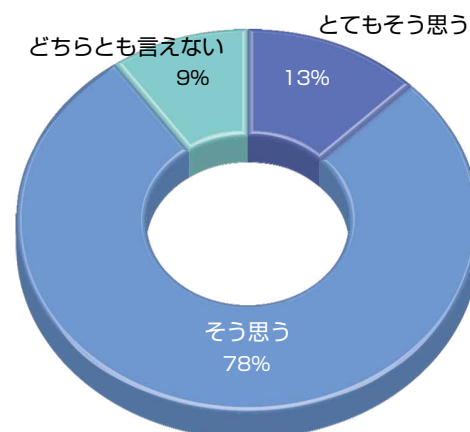
- ② 組織の自己点検(17の視点)を実施したことで、担当した団体の組織課題への理解が深まりましたか



- ③ 担当した団体と情報共有や意見交換が十分できましたか



- ④ 今回の伴走支援によって、担当した団体のなかに変化が生じたと感じますか

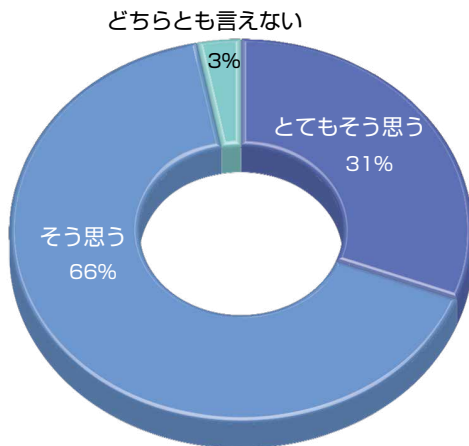


アンケート結果 自由記述回答より

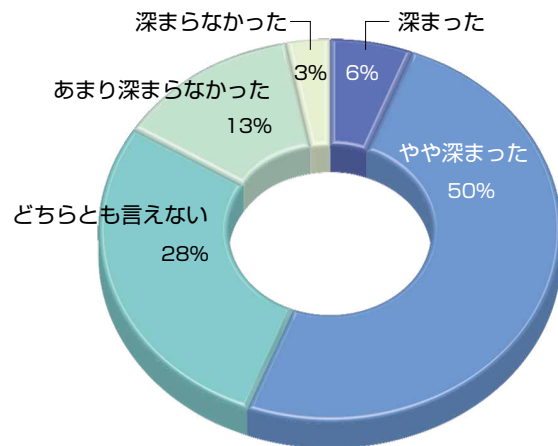
本プログラムは、あなたの相談支援力の向上に役立ちましたか

- ・ 団体の活動状況などに触れ、団体の抱えている問題点や支援の方向性などを団体の方と一緒に考えることができた。
- ・ 限られた期間で、表面的な課題への多角的なアプローチから真の課題を見つけるプロセスに繋がられた。
- ・ 関係づくりから支援内容の整理、進行管理までを一連の流れとして経験できた。
- ・ 当初想定した支援方法を修正しながら団体の思いに寄り添うことの難しさを感じつつ、団体の状況や思いに応じて対応を修正することで、最終的に納得感のある支援につながったことは学びとなった。
- ・ 17の視点という分析方法を今回使用することで、可視化しにくい市民活動組織の3観点のバランスや課題を客観的にとらえることができた。
- ・ 頭を悩ませ、そのたびに内部で打合せを行い、自分以外の考え方やアプローチ方法を聞いた。

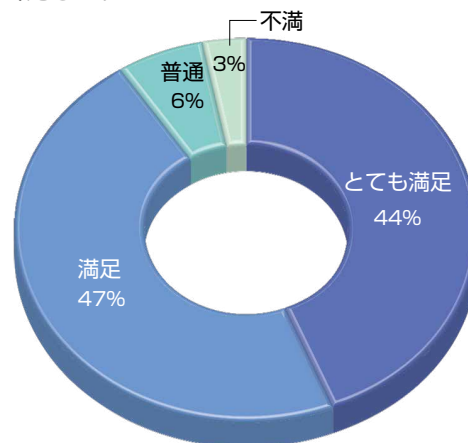
⑤ 今回の伴走支援の取組は、担当した団体の成長や新たな展開につながると感じますか



⑥ 本プログラムによって、他の中間支援組織とのつながりが深まりましたか



⑦ 伴走事務局のフォロー体制について、満足度を教えてください。



団体に伴走して、気づいたことや学んだこと

- ・ 伴走をスタートする際に団体から信頼されることが重要。お互い忙しい中で行うのでスケジュールリングをしっかりと行うこと。
- ・ 団体の話をじっくり伺って情報を得る大切さ。
- ・ 団体に寄り添い、団体がどうありたいかを共に見つけ、その解決とアクションプランと一緒に立てていく、ということがこのプログラムでは求められていると気づき、その軸を持ってサポーターとして参画した。
- ・ 団体が課題と思っている部分について答えや支援が1つではなく、様々な方向からの考え方や支援の方法があり伴走も何通りもあること。
- ・ 仕組みづくり等の基盤強化は、安心できる組織運営のために必須なことだと改めて学んだ。
- ・ 活動自体はうまくいっているように見えていても、悩みや問題を抱えていること。想いをカタチにするにはネットワークや人材が必要であること。

「かながわNPO伴走応援プログラム2025」では、NPO法人20団体が、伴走サポーターと共に組織基盤強化に取り組みました。キックオフ全体会での初顔合わせから始まり、対話を重ねながら半年間の取組を進め、報告会ではそのプロセスや学びを振り返りました。



2025年8月6日(水)、「かながわNPO伴走応援プログラム2025」のスタートにあたり、参加団体と伴走サポーターの初めての顔合わせとなるキックオフ全体会を開催しました。当日は団体メンバー、伴走サポーター、事務局、県職員あわせて69名が参加し、会場は開始前から

活気に包まれていました。

前半は、参加20団体による1分間の活動紹介と、サポーター組織・事務局からの自己紹介を実施。その後、事業の目的や、伴走支援の進め方、今後のスケジュール、組織の現状を可視化する「17の視点」による自己点検の説明を行い、半年間の取組イメージを全体で共有しました。

後半は各テーブルに分かれ、団体とサポーターによる個別打ち合わせを実施。初対面ながらも、互いの想いや現状を丁寧に語り合う和やかな雰囲気の中で交流が進み、連絡方法や今後の予定確認など、伴走の第一歩となる対話の時間となりました。本プログラムの土台となる信頼関係づくりの場として、実りあるスタートを切ることができました。

2026年2月20日(金)、約半年間の伴走支援の成果を共有する「取組報告会」を開催しました。

当日は、20チーム(参加団体と伴走サポーター)が一堂に会し、「団体紹介」「組織の状況と課題」「組織基盤強化に向けた取組」「感想・今後に向けて」の4点を軸に、それぞれの歩みを発表しました。都合により出席できなかった団体は、伴走サポーターが代わってその歩みを丁寧に伝え、半年間の積み重ねが会場全体に共有されました。

後半の交流会では、はじめに活動内容などが近い団体同士でテーブルを囲み、その後は自由に行き来しながら対話を深めました。各地・各分野で活動する団体同士が言葉を交わし、新たな気づきや共感が生まれる場となりました。



本会ではアンケートの代わりに、参加者一人ひとりが感じたことや応援メッセージを、「葉っぱ」の形の付箋に書き、「木のイラスト」に貼る形で共有しました。会の終わりには、多くの想いが集まり、木が豊かに育つように広がる様子が印象的でした。

伴走サポーター会議

伴走支援の実践力を高めることを目的に、2025年6月以降、中間支援組織のメンバーが集まり、「伴走サポーター会議」や勉強会を重ねてきました。オンライン学習や対面ワークショップなども交えながら、組織課題の捉え方や支援の進め方について、経験の共有や意見交換を行いました。

伴走サポーターの相互研鑽の場

本プログラムでは、伴走サポーター同士が経験や知見を持ち寄り、学び合うことを通じて伴走支援の実践力を高めていくことを目的に、16の中間支援組織によるサポーター会議を、2025年9月から2026年1月までほぼ月1回オンラインで開催しました。悩みや工夫を共有しながら、神奈川県全体のNPO支援力の向上をめざしています。

11月は対面のワークショップ形式で実施し、25名が参加しました。当日は、各チームの取組状況を報告し合った後、グループワークを2回行って、伴走支援の進め方や課題の捉え方について意見交換を行いました。

どんな情報や視点を大事にしているか

1回目のグループワークは、「他の伴走サポーターに聞いてみたいこと（相談したいこと）」をテーマに、各自が持ち寄った話題について意見交換しました。伴走を進めるなかで感じた気づきや悩みを、組織を超えて共有する時間となりました。

2回目のグループワークでは、団体の組織課



題の特定や優先づけ、支援方針を考えるうえで、どんな情報や視点を大事にしているか、各自の経験を共有しながら、議論を深めました。「代表だけでなく現場メンバーの声を丁寧に聞くこと」「表面的な課題の背後にある、裏テーマを見極めること」「短期的な成果物と長期的な自走支援の双方を意識すること」など、多様な視点が共有されました。また、支援する・される関係ではなく、NPO活動を推進する仲間として伴走する姿勢の大切さも確認しました。

参加者からは「他の支援組織の実践を知ることによって自らの支援を見直す機会になった」との声があり、会議が相互に学び合う場として機能していることが実感できる場となりました。

勉強会

NPO伴走支援の勉強会 (2025年6月)

2025年6月9日(月)に河合 将生さん(office musubime代表)を講師にお迎えして、NPO伴走支援の勉強会をオンラインで開催しました。神奈川県内の中間支援組織のメンバー32名が出席して、伴走支援者のあり方や支援手法への理解を深めました。伴走支援をスタートするうえで指針となるお話を伺うことができました。

組織の自己点検ツール 『17の視点』の活用に関する勉強会 (2025年7月)

2025年7月3日(木)に組織の自己点検ツール『17の視点』の活用に関する勉強会をオンラインで開催しました。中間支援組織のメンバー27名が出席して、『17の視点』の確認や読み取りのポイントの共有などを行いました。

本プログラムでは、伴走支援による組織基盤強化の取組を進めるにあたり、市民組織の自己診断ツール『組織を支える17の視点』を活用しています。団体の活動や運営に関わる複数のメンバーに、17の設問で構成される「自己点検シート」に回答いただき、回答者全員の回答結果を集計・分析することで、組織課題の発見と課題解決のためのコミュニケーションに役立てました。

『組織を支える17の視点』とは

組織基盤強化につながる団体の組織力の現状把握を目的に、特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構が開発した組織の自己診断ツールです。

この診断ツールは、ミッション、リソース、ガバナンスの3つの観点から作られた17の設問によって、団体メンバー（役員・スタッフ・ボランティア・会員など、団体の活動・運営にかかわる様々なメンバー）の組織運営に関する意識・認識の状況を確認し、これを数値化して集計・分析した集計結果表を読み解くことで、組織特性を理解し、課題を見つけることができる自己診断ツールです。

〈参考〉

特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構 <https://f-npocafe.or.jp/>

地域版組織診断システムの運用(「17の視点」について) <https://f-npocafe.or.jp/466>



『組織を支える17の視点』の活用例

— 組織内の認識の違いから、取組課題を見つける —

「組織を支える17の視点」の特徴は、回答者を複数のグループに分けて結果を比較することで、組織全体の平均だけでは見えにくい「立場による認識の違い」を把握できる点にあります。ある団体では、「自己点検シート」に15名が回答し、回答者の属性に応じてA（役員）、B（正会員）、C（ボランティア）の3つのグループに分けて集計しました。結果は全体としてバランスが取れていましたが、「活動に関わる人たちの満足を得るための工夫をしていますか？」という設問について、Cグループ（ボランティア）の回答がAグループ（役員）より2ポイント低いことに、伴走サポーターが注目しました。

この結果から、役員とボランティアの間で、組織の状況や課題に対する認識にギャップがある可能性があると考え、団体メンバーへのヒアリングを進めました。すると、学生ボランティアが活動に関心を持ちながらも、継続的に関われる仕組みが十分に整っていないことが分かりました。また、役員側も若い世代の関わりを広げたいと考えているものの、具体的な受け入れ体制を模索している段階でした。こうした状況を踏まえ、伴走サポーターは、学生ボランティアが主体的に関われる仕組みづくりの検討を団体とともに進めることとなりました。

このように「17の視点」は、単に点数の高低を確認するツールではなく、組織に関わるメンバーの認識の違いに気づき、その背景を対話を通じて丁寧に掘り下げることによって、組織の課題や今後の取組の方向性を見つける手がかりとして活用されています。

『組織を支える17の視点』の17の設問

1 貴団体は、設立時の活動への想い(組織の目的)が文書になっていますか？

また、組織の目的は一緒に活動している人たちに理解・共有されていると思いますか？

2 貴団体の活動目的には、社会や地域を何とかしたいという想いや、今までにない新しい取組が込められていると思いますか？

3 貴団体の組織のルール(定款等)は文書になっていますか？また、活動に関わる人たちもそれを知っていますか？

4 貴団体は、役員(理事、監事)の役割や決め方を決めていますか？

5 貴団体は、活動の計画書・報告書を毎年作成していますか？

6 貴団体は、活動の予算書・決算書を毎年作成していますか？

7 貴団体は、新たなボランティア、スタッフなどを受け入れる体制ができていますか？(たとえば、人材育成担当スタッフの存在や受け入れ説明会の開催など)

8 貴団体は、必要な資金の調達を行う工夫をしていますか？

9 貴団体の今の活動は、設立時に何とかしたいと思った課題の解決に向かっていていると思いますか？

10 貴団体は、活動に役立ちそうな社会情勢の変化を追いかけていますか？

11 貴団体は、活動に関わる人たちの満足を得るための工夫をしていますか？

12 貴団体は、広く社会に向け、働きかけや団体情報等の情報を発信していますか？

13 貴団体は、会議(総会、役員会、理事会、運営委員会等)の記録(議事録等)を作成し保管していますか？

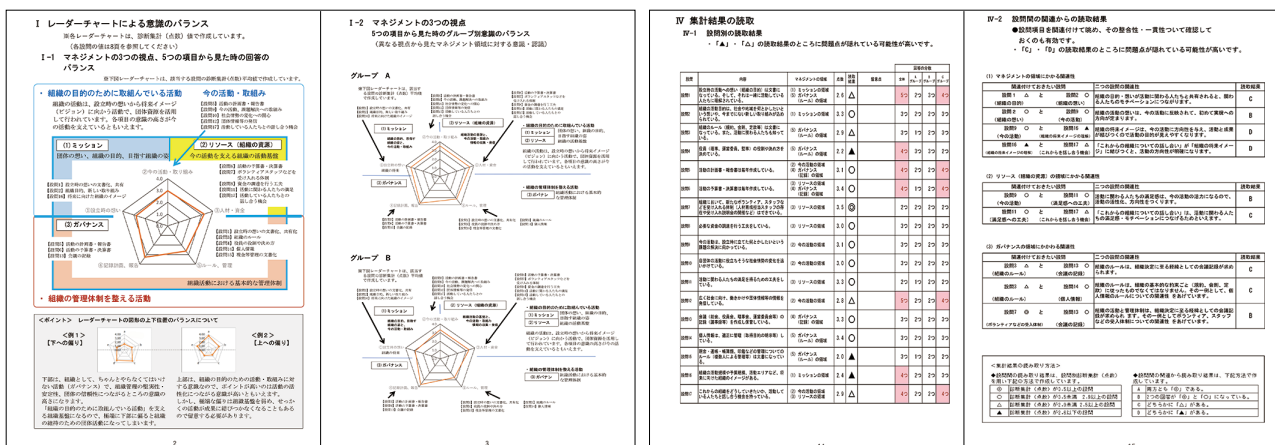
14 貴団体は、個人情報を適正に管理していますか？(たとえば、取得目的の明示等)

15 貴団体は、現金・通帳・帳簿類、印鑑などの管理についてのルールが文書になっていますか？(たとえば、複数人による管理等)

16 貴団体には、組織の活動規模や予算規模、活動エリアなど、将来に向けた組織のイメージがありますか？

17 貴団体は、これからの組織をどうしていきたいか、活動している人たちが話し合う機会を持っていますか？

組織の「今」が集計結果表としてカタチになります！



本プログラムに参加した伴走サポーター 一覧



支援組織名	WEB サイト	支援組織名	WEB サイト
① 公益財団法人かわさき市民活動センター 〔かわさき市民活動センター〕		⑨ (N)さがみはら市民会議 〔さがみはら市民活動サポートセンター〕	
② (N)くみんネットワークとつか 〔とつか区民活動センター〕		⑩ (N)市民セクターよこはま 〔横浜市市民協働推進センター〕	
③ (N)鎌倉市市民活動センター運営会議 〔鎌倉市市民活動センター〕		⑪ (N)アクションポート横浜	
④ (N)藤沢市民活動推進機構 〔藤沢市市民活動推進センター〕 〔藤沢市市民活動プラザむつあい〕		⑫ (N)ぐらすかわさき	
⑤ (N)湘南NPOサポートセンター 〔ひらつか市民活動センター〕		⑬ (N)まちラボ	
⑥ (N)YMCAコミュニティサポート 〔横須賀市立市民活動サポートセンター〕		⑭ (N)森ノオト	
⑦ (N)YMCAコミュニティサポート 〔三浦市民交流センターニナイテ〕		⑮ 参画はぐくみ工房	WEB無し
⑧ ざま市民活動応援広場 〔座間市民活動サポートセンター〕		⑯ 一般社団法人 ソーシャルコーディネートかながわ	

※(N)はNPO法人 ※括弧内は運営施設名(2026年3月現在)

🚩🚩🚩 すぐには見えない変化とともに歩む 🚩🚩🚩

あとがき

私たちはこれまで、神奈川県内のNPOや市民活動団体に寄り添いながら、「伴走支援」というかたちでさまざまなサポートを重ねてきました。相談に耳を傾け、ともに整理し、考え、仕組みを整える。そうした積み重ねの中で、団体の変化は、土台となる関係性や日々の営みの中から生まれるものだと感じるようになりました。

大切なのは、制度や手順だけでなく、その団体らしさや、人と人との関係、日々の対話や意思決定のあり方に目を向けること。少し立ち止まって全体を見渡し、団体自身が気づき、選び、動き出せるよう支えることが、伴走者の役割の一つなのだと感じています。

神奈川の伴走支援は、こうした視点を大切にしながら、一つひとつの団体に向き合ってきました。正解を示すのではなく、対話を重ね、ともに考え、ともに歩む。その積み重ねから生まれた実践や知恵を地域で共有しながら、これからも伴走は続いています。

かながわNPO伴走応援プログラム2025報告書

(神奈川県「令和7年度NPOの組織基盤強化のための伴走支援事業」実施報告書)

2026年3月 発行

制作・編集 かながわNPO伴走応援プログラム事務局
(藤枝香織、五十嵐めぐみ、林純、細矢岳彦、印田彩希子)

デザイン 樗木八恵子

発 行 一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ
神奈川県藤沢市藤沢577寿ビル301
<https://soco-kana.jp/>

